

講義科目名称： 多文化共生を目指した地域課題プロジェクト 授業コード： 63000032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期（3Q）	1・2・3・4	1	選択
担当教員			
錦織 信幸／長坂 香織			
区分	科目番号	曜日・時限	
添付ファイル			

対象学生	全学部、山梨大学生、科目等履修生（社会人・高校生等）、特別聴講生（大学コンソーシアムやまなし等）
授業の目的	この授業の目的は、地域の多文化共生の現状と課題を理解し、多文化共生に資する対話型プロジェクトの企画・運営(実施)の方法について理解し、実際に体験することにあります。 具体的なテーマとして、外国の方の住まいにかかわる課題について取り組みます。住居は人が生活する上で欠かせない基本的ニーズであり、安心・安全な生活を営む上での基盤となるものです。しかしながら外国籍の方々や外国にルーツを持つ方々にとって、日本での住宅確保は容易ではなく、差別的な処遇も横行しているという現状があります。本科目では、住居の賃貸・管理にかかわる関係者、住居に課題を抱える当事者の方々などからその状況を学び、課題解決のための具体的なアクション（対話型イベント）を計画・実施します。 （2年生以上の学士基盤力）自然・社会・文化理解、想像力・表現力、実践力・問題解決力、人間関係形成力、自己学修力、地域・国際コミットメント力
学士力A	実践力
学士力A（ウエイト）	◎
学士力B	倫理・シティズンシップ力
学士力B（ウエイト）	○
学士力C	
学士力C（ウエイト）	
学士力D	
学士力D（ウエイト）	
学士力E	
学士力E（ウエイト）	
学士力F	
学士力F（ウエイト）	
学士力G	
学士力G（ウエイト）	
学士力H	
学士力H（ウエイト）	
到達目標No.1	地域の多文化共生の現状と課題を理解し、説明することができる。
到達目標No.1（学士力対応）	倫理・シティズンシップ力
到達目標No.2	対話型の場づくりの企画・運営の方法を理解する。
到達目標No.2（学士力対応）	倫理・シティズンシップ力
到達目標No.3	実際に多文化共生に資する対話型の場の企画をすることができる。
到達目標No.3（学士力対応）	実践力
到達目標No.4	実際に多文化共生に資する対話型の場を運営することができる。
到達目標No.4（学士力対応）	実践力
到達目標No.5	

到達目標No.5 (学 士力対応)			
成績評価の方法	評価の方法	割合(%)	評価の基準
	目標No.1	20%	毎回の授業後の振り返り
	目標No.2	20%	レポート
	目標No.3	20%	課題(企画書の作成)
	目標No.4	40%	プロジェクト企画実施についての振り返り
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生に関わる課題、および対話型場づくりの方法について講義する。 ・地域の課題や現状について、当該分野の専門家・実務家からの視点を提供する。 ・アクティブ・ラーニング：主にグループワーク、ディスカッションを通して、対話型プロジェクトを企画から実施まで行う。その際、多様な人々(多様な学部/学科の学生、社会人、留学生)が、それぞれの意見を出し合い、一つの場を創り上げる体験をする。 		
受講に際して・学 生へのメッセージ	近年、多文化共生にかかわる課題について学ぶ機会は多くなってきましたが、本科目の特長は、社会的課題について学ぶだけでなく、問題点を整理し、具体的な解決策をデザイン・実施する部分にあります。問題分析能力、問題解決能力、企画・実施能力を育むことができる貴重な「面白い」機会を提供できます。多様な人を巻き込む場づくりは、困難も伴いますが、人との新たなつながりも得ることができます。自ら考え、それをクラスで共有し、積極的に参加・協働して場を共創することを楽しんでください。		
教科書	テキスト	なし	
	参考書	香取一昭、大川恒著(2011). ホールシステム・アプローチ 1000人以上でもとことん話し合える方法. 日本経済新聞出版. 香取一昭、大川恒著(2017). ワールド・カフェをやろう(新版) 会話がつながり、世界がつながる. 日本経済新聞出版. 『多文化共生事例集(令和3年度版)』 ・その他、参考図書、参考資料は随時指示する。	
授業計画の概要	1		
	タイトル	(10/1火) オリエンテーション/山梨県の多文化共生の現状と課題/外国の方の住まいにかかわる課題(概観)	
	授業内容	授業科目全体のオリエンテーション、山梨の多文化共生の現状についての講義、外国人の住まいに関する課題についての講義。	
	事前学習	山梨県の多文化共生の現状についての資料に目を通しておく。	
	事後学習	外国人の住まいの課題について指定のビデオを視聴し、感想を提出する。	
	2		
	タイトル	(10/8火) 外国の方の住まいにかかわる課題(賃貸管理業者の視点から)	
	授業内容	賃貸管理業にかかわる実務者を招き講義を受けて、議論する。	
	事前学習		
	事後学習	各人が課題整理シートを作成し、授業内外で学んだ内容を整理・記入していく。	
	3		
	タイトル	(10/15火) 関係者を交えたパネルディスカッション	
	授業内容	住宅確保に配慮を要する人々を支援する公的あるいは民間の取り組みについて学ぶ。関係者を交えて、パネルディスカッション形式で議論を深める。	
	事前学習	パネルディスカッションに向けて、関連情報を収集・学習する。	
	事後学習	課題整理シートを完成させる。	
	4		
	タイトル	(10/22火) 課題の整理 / 多文化共生プロジェクトプロジェクト企画	
	授業内容	外国人の住まいに関する社会的課題の整理を行う。各課題の中から問題解決に資するような行動を考え、プロジェクト企画につなげる。	
	事前学習		
	事後学習	課題整理シートを完成させる。 プロジェクト企画書の作成	
5			
タイトル	(10/29火) プロジェクト実施の準備①		
授業内容	グループとして策定したプロジェクト企画の実施のための計画を立てて、タスク割り当て、進捗管理を行う。		
事前学習			
事後学習	プロジェクト企画書の作成		
6			
タイトル	(11/5火) プロジェクト実施の準備②		

	授業内容	プロジェクト企画の実施のための作業、進捗管理。
	事前学習	
	事後学習	プロジェクト実施に向けた作業
	7	
	タイトル	(11/17日予定) プロジェクト実施と振り返り
	授業内容	プロジェクトの運営 (第7回、第8回は2コマ続きとする)
	事前学習	プロジェクト実施・運営に向けた学習者間での最終調整
	事後学習	プロジェクト企画実施についての自己評価と振り返り
	8	
	タイトル	(11/17日予定) プロジェクト実施と振り返り
	授業内容	プロジェクトの運営
	事前学習	プロジェクト実施・運営に向けた学習者間での最終調整
	事後学習	プロジェクト企画実施についての自己評価と振り返り
実務経験のある教員による授業科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・海外における人道援助活動や移民の権利保護にかかわる活動、日本国内における外国の方への住居・生活支援業務に携わっている経験を活かし、居住・移動の自由に関する基本的人権および日本における住居関連法令の視点、実務的な視点から指導を行う。 ・多文化共生関連の市民団体の代表を務め、毎年、コンテスト、フォーラム、セミナーを実施しているので、その経験を活かして授業を行う。 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、次の時間帯と場所で実施します。 第1回 10/1 ~ 第6回 11/5 18:15~19:45 山梨県立大学飯田キャンパス 第7回・8回 11/17 (予定) 9:00~12:10 (予定) 山梨県立大学飯田キャンパス (予定) ・他大学の学生や社会人等とともに学ぶ「PENTAS YAMANASHI」の科目です。 	